資源株ファンド 通貨選択シリーズ<ブラジルレアル・コース>（毎月分配型）

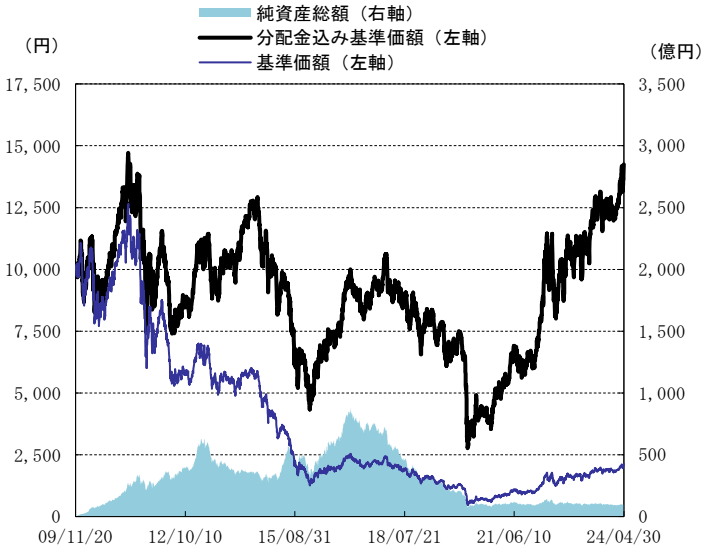
ファンドの概要
設定日　2009年11月20日
償還日　2029年6月15日
決算日　原則毎月17日
分配時期　決算日毎

ファンドの特色
1．主として世界の資源株に投資を行ない、中長期的な値上がり益の獲得をめざします。
2．「ブラジルレアル・コース」「南アフリカランド・コース」「オーストラリアドル・コース」「米ドル・コース」の4つのコースがあります。
3．毎月、収益分配を行なうことをめざします。
※南アフリカランド・コースおよびオーストラリアドル・コースは、2024年６月17日をもって信託期間が終了いたします。

※当レポートでは基準価額を１万口当たりで表示しています。
※当レポートのグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。
※当レポート中の各数値は四捨五入して表示している場合がありますので、それを用いて計算すると誤差が生じることがあります。

運　用　実　績

＜基準価額の推移＞



基準価額　：　2,121円
純資産総額：　99.58億円

＜基準価額の騰落率＞

１ヵ月	３ヵ月	６ヵ月	１年	３年	設定来
4.23%	14.75%	18.11%	30.43%	136.30%	42.42%

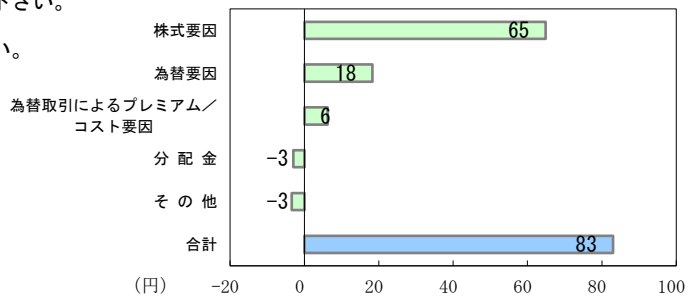
※基準価額の騰落率は、当ファンドに分配金実績があった場合に、当該分配金（税引前）を再投資したものとして計算した理論上のものである点にご留意下さい。

＜資産構成比率＞

ナチュラル・リソース・ファンド ブラジルレアル・クラス	98.6%
マネー・アカウント・マザーファンド	0.1%
現金・その他	1.3%

※分配金込み基準価額は、当ファンドに分配金実績があった場合に、当該分配金（税引前）を再投資したものとして計算した理論上のものである点にご留意下さい。
※基準価額は、信託報酬（後述の「手数料等の概要」参照）控除後の値です。信託報酬の詳細につきましては、後述の「手数料等の概要」をご覧ください。

＜基準価額騰落の要因分解（月次ベース）＞



※上記の要因分解は、概算値であり、実際の基準価額の変動を正確に説明するものではありません。傾向を知るための参考値としてご覧下さい。
※為替取引によるプレミアム／コストは、為替取引を行なう通貨間の金利差相当分の収益／費用です。

＜分配金実績（税引前・１万口当たり）＞

設定来合計	直近12期計	23･5･17	23･6･19	23･7･18	23･8･17	23･9･19
8,067円	36円	3円	3円	3円	3円	3円
23･10･17	23･11･17	23･12･18	24･1･17	24･2･19	24･3･18	24･4･17
3円	3円	3円	3円	3円	3円	3円

※分配金額は収益分配方針に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断により分配を行なわない場合もあります。

ご　参　考

＜利回り＞

株式配当利回り（A）	2.99%
為替取引によるプレミアム／コスト（B）	4.80%
米ドル短期金利	(5.36%)
ブラジルレアル短期金利	(10.16%)
(A)+(B)	7.78%

※為替取引によるプレミアム／コストは、為替取引を行なう通貨間の金利差相当分の収益／費用です。

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様に当ファンドへのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

資源株ファンド 通貨選択シリーズ<南アフリカランド・コース>（毎月分配型）

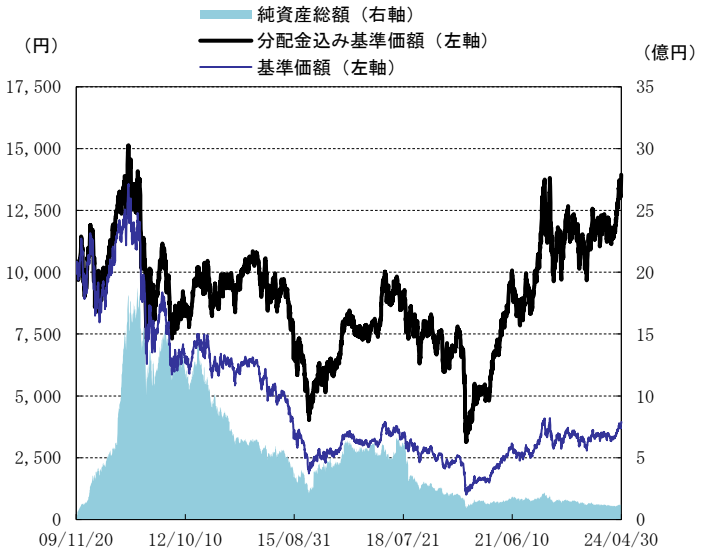
ファンドの概要
設定日　2009年11月20日
償還日　2024年6月17日
決算日　原則毎月17日
分配時期　決算日毎

ファンドの特色
1．主として世界の資源株に投資を行ない、中長期的な値上がり益の獲得をめざします。
2．「ブラジルレアル・コース」「南アフリカランド・コース」「オーストラリアドル・コース」「米ドル・コース」の4つのコースがあります。
3．毎月、収益分配を行なうことをめざします。
※南アフリカランド・コースおよびオーストラリアドル・コースは、2024年６月17日をもって信託期間が終了いたします。

※当レポートでは基準価額を１万口当たりで表示しています。
※当レポートのグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。
※当レポート中の各数値は四捨五入して表示している場合がありますので、それを用いて計算すると誤差が生じることがあります。

運　用　実　績

＜基準価額の推移＞



基準価額　：　3,949円
純資産総額：　1.23億円

＜基準価額の騰落率＞

１ヵ月	３ヵ月	６ヵ月	１年	３年	設定来
7.86%	18.83%	19.76%	26.88%	59.32%	39.48%

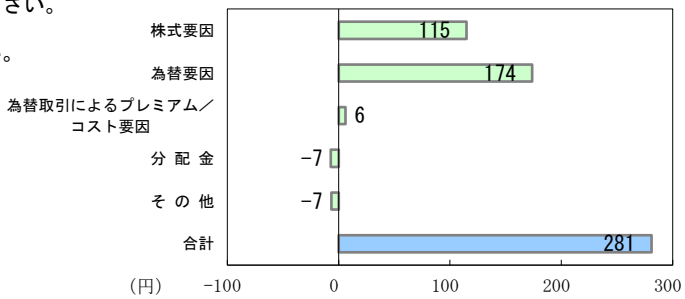
※基準価額の騰落率は、当ファンドに分配金実績があった場合に、当該分配金（税引前）を再投資したものとして計算した理論上のものである点にご留意下さい。

＜資産構成比率＞

ナチュラル・リソース・ファンド 南アフリカランド・クラス	97.2%
マネー・アカウント・マザーファンド	0.1%
現金・その他	2.8%

※分配金込み基準価額は、当ファンドに分配金実績があった場合に、当該分配金（税引前）を再投資したものとして計算した理論上のものである点にご留意下さい。
※基準価額は、信託報酬（後述の「手数料等の概要」参照）控除後の値です。信託報酬の詳細につきましては、後述の「手数料等の概要」をご覧ください。

＜基準価額騰落の要因分解（月次ベース）＞



※上記の要因分解は、概算値であり、実際の基準価額の変動を正確に説明するものではありません。傾向を知るための参考値としてご覧下さい。
※為替取引によるプレミアム／コストは、為替取引を行なう通貨間の金利差相当分の収益／費用です。

＜分配金実績（税引前・１万口当たり）＞

設定来合計	直近12期計	23･5･17	23･6･19	23･7･18	23･8･17	23･9･19
6,433円	84円	7円	7円	7円	7円	7円
23･10･17	23･11･17	23･12･18	24･1･17	24･2･19	24･3･18	24･4･17
7円	7円	7円	7円	7円	7円	7円

※分配金額は収益分配方針に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断により分配を行なわない場合もあります。

ご　参　考

＜利回り＞

株式配当利回り（A）	2.99%
為替取引によるプレミアム／コスト（B）	2.88%
米ドル短期金利	(5.36%)
南アフリカランド短期金利	(8.24%)
(A)+(B)	5.87%

※為替取引によるプレミアム／コストは、為替取引を行なう通貨間の金利差相当分の収益／費用です。

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様に当ファンドへのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

資源株ファンド 通貨選択シリーズ＜オーストラリアドル・コース＞（毎月分配型）

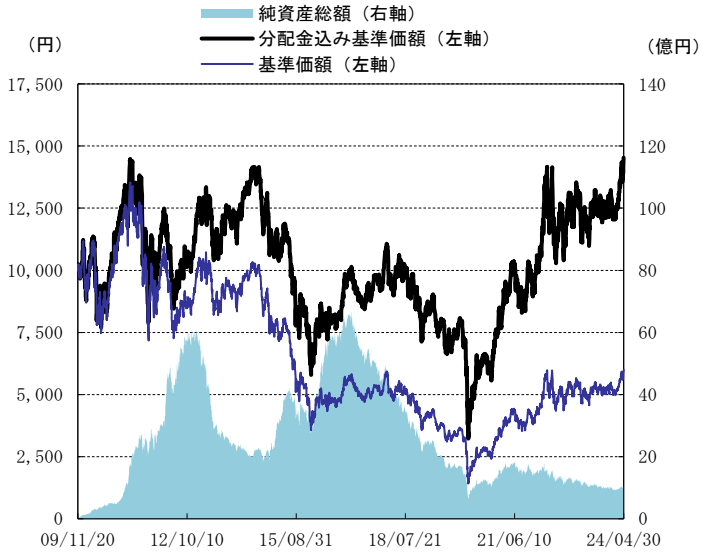
ファンドの概要
設定日　2009年11月20日
償還日　2024年6月17日
決算日　原則毎月17日
分配時期　決算日毎

ファンドの特色
1．主として世界の資源株に投資を行ない、中長期的な値上がり益の獲得をめざします。
2．「ブラジルレアル・コース」「南アフリカランド・コース」「オーストラリアドル・コース」「米ドル・コース」の4つのコースがあります。
3．毎月、収益分配を行なうことをめざします。
※南アフリカランド・コースおよびオーストラリアドル・コースは、2024年６月17日をもって信託期間が終了いたします。

※当レポートでは基準価額を１万口当たりで表示しています。
※当レポートのグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。
※当レポート中の各数値は四捨五入して表示している場合がありますので、それを用いて計算すると誤差が生じることがあります。

運　用　実　績

＜基準価額の推移＞



※分配金込み基準価額は、当ファンドに分配金実績があった場合に、当該分配金（税引前）を再投資したものとして計算した理論上のものである点にご留意下さい。
※基準価額は、信託報酬（後述の「手数料等の概要」参照）控除後の値です。信託報酬の詳細につきましては、後述の「手数料等の概要」をご覧ください。

基準価額　：　5,995円
純資産総額：　10.58億円

＜基準価額の騰落率＞

１ヵ月	３ヵ月	６ヵ月	１年	３年	設定来
6.48%	15.97%	19.75%	23.03%	51.64%	45.35%

※基準価額の騰落率は、当ファンドに分配金実績があった場合に、当該分配金（税引前）を再投資したものとして計算した理論上のものである点にご留意下さい。

＜資産構成比率＞

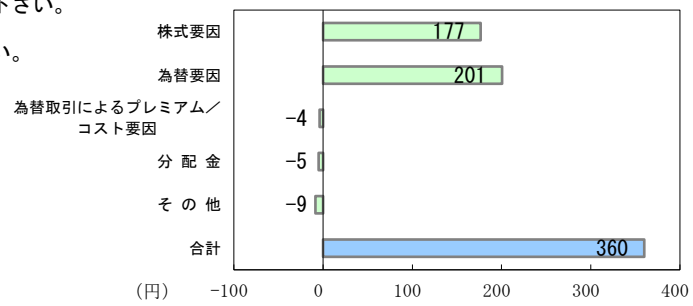
ナチュラル・リソース・ファンド オーストラリアドル・クラス	97.2%
マネー・アカウント・マザーファンド	0.1%
現金・その他	2.7%

＜分配金実績（税引前・１万口当たり）＞

設定来合計	直近12期計	23･5･17	23･6･19	23･7･18	23･8･17	23･9･19
5,905円	60円	5円	5円	5円	5円	5円
23･10･17	23･11･17	23･12･18	24･1･17	24･2･19	24･3･18	24･4･17
5円	5円	5円	5円	5円	5円	5円

※分配金額は収益分配方針に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断により分配を行なわない場合もあります。

＜基準価額騰落の要因分解（月次ベース）＞



※上記の要因分解は、概算値であり、実際の基準価額の変動を正確に説明するものではありません。傾向を知るための参考値としてご覧下さい。
※為替取引によるプレミアム／コストは、為替取引を行なう通貨間の金利差相当分の収益／費用です。

ご　参　考

＜利回り＞

株式配当利回り（A）	2.99%
為替取引によるプレミアム／コスト（B）	-1.08%
米ドル短期金利	(5.36%)
オーストラリアドル短期金利	(4.28%)
(A)+(B)	1.90%

※為替取引によるプレミアム／コストは、為替取引を行なう通貨間の金利差相当分の収益／費用です。

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様に当ファンドへのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

資源株ファンド 通貨選択シリーズ＜米ドル・コース＞（毎月分配型）

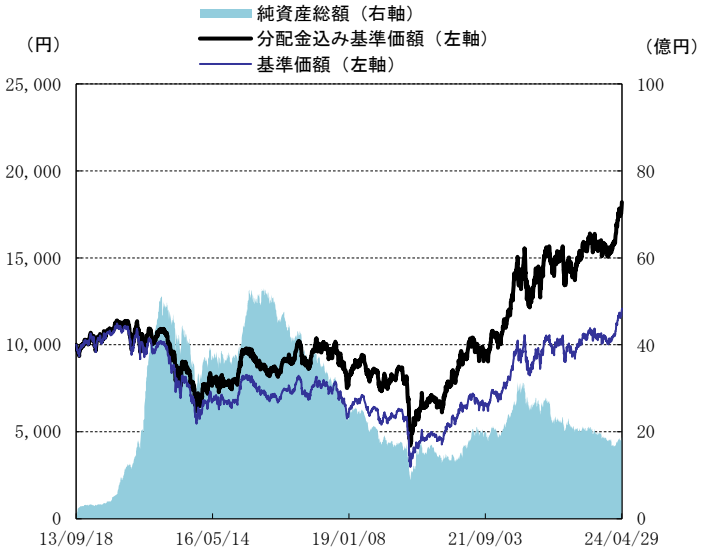
ファンドの概要
設定日　2013年9月18日
償還日　2029年6月15日
決算日　原則毎月17日
分配時期　第2期以降、決算日毎

ファンドの特色
1．主として世界の資源株に投資を行ない、中長期的な値上がり益の獲得をめざします。
2．「ブラジルレアル・コース」「南アフリカランド・コース」「オーストラリアドル・コース」「米ドル・コース」の4つのコースがあります。
3．毎月、収益分配を行なうことをめざします。
※南アフリカランド・コースおよびオーストラリアドル・コースは、2024年６月17日をもって信託期間が終了いたします。

※当レポートでは基準価額を１万口当たりで表示しています。
※当レポートのグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。
※当レポート中の各数値は四捨五入して表示している場合がありますので、それを用いて計算すると誤差が生じることがあります。

運　用　実　績

＜基準価額の推移＞



基準価額　：　12,086円
純資産総額：　18.80億円

＜基準価額の騰落率＞

１ヵ月	３ヵ月	６ヵ月	１年	３年	設定来
6.04%	16.72%	17.41%	26.58%	89.47%	82.12%

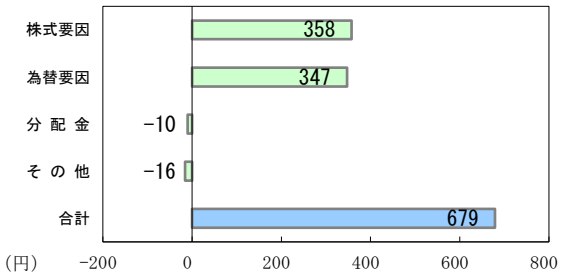
※基準価額の騰落率は、当ファンドに分配金実績があった場合に、当該分配金（税引前）を再投資したものとして計算した理論上のものである点にご留意下さい。

＜資産構成比率＞

ナチュラル・リソース・ファンド 米ドル・クラス	97.2%
マネー・アカウント・マザーファンド	0.1%
現金・その他	2.7%

※分配金込み基準価額は、当ファンドに分配金実績があった場合に、当該分配金（税引前）を再投資したものとして計算した理論上のものである点にご留意下さい。
※基準価額は、信託報酬（後述の「手数料等の概要」参照）控除後の値です。信託報酬の詳細につきましては、後述の「手数料等の概要」をご覧ください。

＜基準価額騰落の要因分解（月次ベース）＞



※上記の要因分解は、概算値であり、実際の基準価額の変動を正確に説明するものではありません。傾向を知るための参考値としてご覧下さい。

＜分配金実績（税引前・１万口当たり）＞

設定来合計	直近12期計	23･5･17	23･6･19	23･7･18	23･8･17	23･9･19
3,100円	120円	10円	10円	10円	10円	10円
23･10･17	23･11･17	23･12･18	24･1･17	24･2･19	24･3･18	24･4･17
10円	10円	10円	10円	10円	10円	10円

※分配金額は収益分配方針に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断により分配を行なわない場合もあります。

ご　参　考

＜利回り＞

株式配当利回り	2.99%

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様に当ファンドへのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

ナチュラル・リソース・ファンドのポートフォリオの内容

※日興アセットマネジメント アメリカズ・インクより提供された情報です。当外国投資信託の数値です。
※比率は組入株式評価総額に対するものです。

＜株式組入上位10銘柄＞　（銘柄数：68銘柄）

	銘柄名	国名	業 種	比率
1	SHELL PLC-ADR シェル	イギリス	エネルギー	5.46%
2	FREEPORT-MCMORAN INC フリーポート・マクモラン	アメリカ	素材	4.87%
3	BHP GROUP LTD-SPON ADR BHPグループ	オーストラリア	素材	4.65%
4	EXXON MOBIL CORP エクソンモービル	アメリカ	エネルギー	4.31%
5	TOTALENERGIES SE -SPON ADR トタル	フランス	エネルギー	4.01%
6	CHEVRON CORP シェブロン	アメリカ	エネルギー	3.95%
7	CORTEVA INC コルテバ	アメリカ	素材	3.63%
8	NUTRIEN LTD ニュートリエン	カナダ	素材	3.62%
9	LINDE PLC リンデ	イギリス	素材	3.19%
10	RIO TINTO PLC-SPON ADR リオ・ティント	オーストラリア	素材	2.95%

＜業種比率＞

業種	比率
素材	52.2%
エネルギー	41.1%
資本財	2.9%

＜株式組入上位５ヵ国＞

	国名	比率
1	アメリカ	58.6%
2	カナダ	14.4%
3	イギリス	9.2%
4	オーストラリア	8.7%
5	フランス	4.0%

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。
■当資料は、投資者の皆様に当ファンドへのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

運　用　コ　メ　ン　ト

※運用方針等は作成基準日現在のものであり、将来の市場環境の変動等により変更される場合があります。

◎市場環境

米国株式市場は、前月末と比べて下落しました。米国のＩＳＭ製造業景況指数が市場予想を上回ったことや、公表された米国主要企業の業績が概ね良好となったこと、生成ＡＩ（人工知能）関連企業への成長期待などが株価の支援材料となったものの、イランがイスラエルを攻撃し、中東情勢が緊迫化したことや、米国の雇用統計において非農業部門雇用者数が市場予想を上回ったことや米国の消費者物価指数（ＣＰＩ）が市場予想を上回ったことを受けて、年内の利下げ観測が後退し米国長期金利が上昇したことなどが株価の重しとなり、株価は下落しました。

欧州株式市場は、前月末と比べて概して上昇しました。イランがイスラエルを攻撃し、中東情勢が緊迫化したことや、ユーロ圏の小売売上高やドイツの製造業受注が市場予想を下回ったこと、米国の利下げ観測後退を受けて欧米の長期金利が上昇したことなどが株価の重しとなったものの、ユーロ圏の消費者物価指数（ＣＰＩ）が市場予想を下回ったことや、欧州中央銀行（ＥＣＢ）が政策金利を据え置いたものの、ＥＣＢ総裁が記者会見で利下げを示唆したこと、ドイツのＩＦＯ企業景況感指数が市場予想を上回ったことなどが支援材料となり、株価は概して上昇しました。

当月のコモディティ市況は、主要商品の価格が概して上昇しました。原油価格は、中東情勢などの緊迫化を受けて急伸する場面があったものの、その後は需要低迷への懸念などから軟調に推移しました。天然ガス価格は、これまで安値圏で推移したため買い戻しが入ったことに加えて、夏季の空調需要による消費量の増加期待などで上昇しました。金価格は、地政学的リスクの高まりを背景に、安全資産としての需要が強まり引き続き上昇しました。他の貴金属では、銀とプラチナの価格は堅調に推移しましたが、パラジウムの価格は下落しました。主要金属価格は、米国と英国の両政府が、取引所でのロシア産のアルミニウム、銅、ニッケルの新規取り扱いを禁止すると発表したことを受けて、総じて上昇しました。主要穀物の価格は、トウモロコシと大豆は下落しましたが、小麦は上昇しました。

ブラジルレアルは対円で上昇しました。ブラジルでは、３月の雇用統計が引き続き堅調を示し、失業率が過去最低水準近くへと一段の低下を見せました。足元まで雇用の伸びが加速し、労働参加率が回復する局面が続いています。雇用の伸びは幅広いセクターにわたっていますが、年初来では建設が牽引役となっています。

南アフリカランドは対円で大きく上昇しました。３月の総合インフレ率は前年同月比5.3％と、市場予想を下回るとともに前月の同5.6％から大きく減速しました。コアインフレ率も前月比0.7％へと鈍化し、これで前年同月比では4.9％と前月の同５％から減速しました。このように消費者物価の上昇率は低下しているものの、原油価格の上昇が引き続き国内の物価全般の見通しに不透明感をもたらしていることから、南アフリカ準備銀行は利下げを急がないものとみられます。

オーストラリアドルは円に対して上昇しました。オーストラリアの主要な輸出産品である鉄鉱石の価格が上昇したことや、オーストラリアの失業率が市場予想より良好となったこと、消費者物価指数（ＣＰＩ）が市場予想を上回ったことを受けて、オーストラリアの長期金利が上昇したことなどがオーストラリアドルの支援材料となったほか、日銀が金融政策決定会合で緩和的な政策の維持を決めたことが円売りの要因となり、円に対して上昇しました。

アメリカドルは円に対して上昇しました。米国の雇用統計で非農業部門雇用者数や消費者物価指数（ＣＰＩ）、小売売上高速報値が市場予想を上回ったことに加えて、米国連邦準備制度理事会（ＦＲＢ）議長がインフレ抑制に時間がかかるとの認識を示したことを受けてＦＲＢの早期利下げ観測が後退し米国の長期金利が上昇したことなどがアメリカドルの支援材料となりました。また、日銀が金融政策決定会合で緩和的な政策の維持を決めたことが円売りの要因となり、円に対して上昇しました。

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様に当ファンドへのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

運　用　コ　メ　ン　ト

※運用方針等は作成基準日現在のものであり、将来の市場環境の変動等により変更される場合があります。

◎運用概況

ポートフォリオでは、包装紙や鉄鋼関連銘柄への控えめの投資や各種金属・鉱業関連銘柄の選択効果などがプラスに寄与した一方、積極的に投資していた石油サービス関連銘柄が全般的に下落したことや、投資していた工業用ガス、電気部品・機器などの関連銘柄が急落したことがマイナスに寄与しました。

当月の株式市場は、米国連邦準備制度理事会（ＦＲＢ）の早期利下げ観測が後退したことが重しとなり、資源・天然資源株など全般的に下落しました。こうしたなか、当ファンドでは一部の保有する銘柄を買い増したほか、決算発表後に株価が急落した食品加工の関連銘柄を新規に取得しました。一方、好業績が株価に織り込まれた保有銘柄への投資を減らしました。

◎今後の見通し

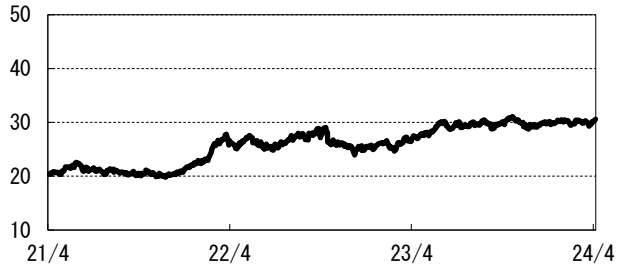
米国の株式市場は、直近まで上昇し割高感を増していたことからＦＲＢの金融緩和への転換点に対する注目度が高まり、ボラティリティ（株価の変動率）は増大しています。当月は、米国の消費者物価指数（ＣＰＩ）が市場予想を上回りインフレの抑制が進展していない可能性を示唆したと受け止められたことが、コモディティ関連銘柄の下落につながりました。ただ、一部の産業における在庫の削減が進んでいることから、当ファンドでは今後需給バランスが整えられれば、関連銘柄の魅力も高まるとみており、投資対象として慎重かつ積極的に取り込む方針です。

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

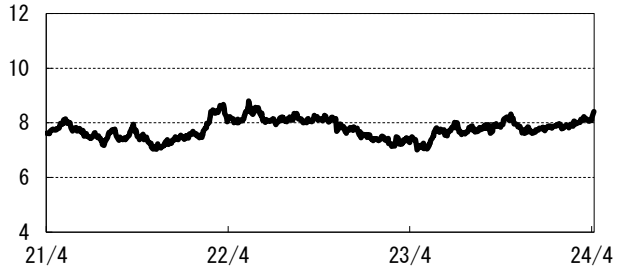
■当資料は、投資者の皆様に当ファンドへのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

ご　　参　　考

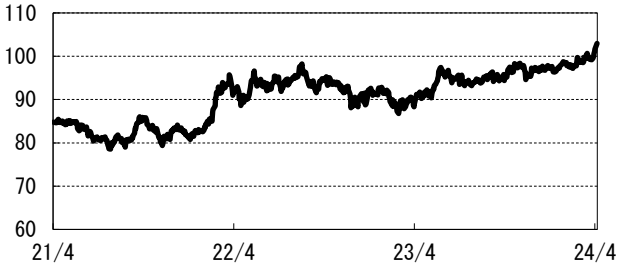
＜為替推移　円／ブラジルレアル＞



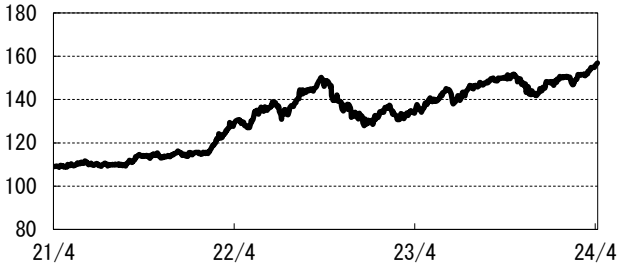
＜為替推移　円／南アフリカランド＞



＜為替推移　円／オーストラリアドル＞



＜為替推移　円／米ドル＞



※信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成。

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様に当ファンドへのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

■お申込みメモ

商品分類　追加型投信／内外／株式

購入単位　販売会社が定める単位
※販売会社の照会先にお問い合わせください。

購入価額　購入申込受付日の翌営業日の基準価額

信託期間　【ブラジルレアル・コース】
2029年６月15日まで（2009年11月20日設定）
【南アフリカランド・コース／オーストラリアドル・コース】
2024年６月17日まで（2009年11月20日設定）
【米ドル・コース】
2029年６月15日まで（2013年９月18日設定）

決算日　毎月17日（休業日の場合は翌営業日）

収益分配　【ブラジルレアル・コース／南アフリカランド・コース／オーストラリアドル・コース】
毎決算時に、分配金額は、委託会社が決定するものとし、原則として、安定した分配を継続的に行なうことをめざします。
※「原則として、安定した分配を行なう」方針としていますが、これは、運用による収益が安定したものになることや基準価額が安定的に推移することなどを示唆するものではありません。また、基準価額の水準、運用の状況などによっては安定した分配とならない場合があることにご留意ください。
※将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。
【米ドル・コース】
毎決算時に、分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向などを勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行なわないこともあります。
※将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

換金価額　換金申込受付日の翌営業日の基準価額

購入・換金申込不可日　販売会社の営業日であっても、購入・換金の申込み日がニューヨーク証券取引所の休業日またはニューヨークの銀行休業日に該当する場合は、購入・換金の申込み（スイッチングを含みます。）の受付は行ないません。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

換金代金　原則として、換金申込受付日から起算して7営業日目からお支払いします。

課税関係　原則として、分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の差益は課税の対象となります。
※課税上は、株式投資信託として取り扱われます。
※公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合に少額投資非課税制度（NISA）の適用対象となります。
※各ファンドは、NISA の対象ではありません。
※配当控除の適用はありません。
※益金不算入制度は適用されません。

■手数料等の概要

投資者の皆様には、以下の費用をご負担いただきます。
＜申込時、換金時にご負担いただく費用＞

購入時手数料　購入時の基準価額に対し3.85%（税抜3.5%）以内
※購入時手数料（スイッチングの際の購入時手数料を含みます。）は販売会社が定めます。
詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
※収益分配金の再投資により取得する口数については、購入時手数料はかかりません。
≪ご参考≫
（金額指定で購入する場合）
購入金額に購入時手数料を加えた合計額が指定金額（お支払いいただく金額）となるよう購入口数を計算します。例えば、100万円の金額指定で購入する場合、指定金額の100万円の中から購入時手数料（税込）をいただきますので、100万円全額が当ファンドの購入金額とはなりません。
※上記の計算方法と異なる場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
（口数指定で購入する場合）
例えば、基準価額10,000円のときに、購入時手数料率3.85%（税込）で、100万口ご購入いただく場合は、次のように計算します。購入金額＝（10,000円／1万口）×100万口＝100万円、購入時手数料＝購入金額（100万円）×3.85%（税込）＝38,500円となり、購入金額に購入時手数料を加えた合計額103万8,500円をお支払いいただくことになります。
※販売会社によっては、一部のファンドのみの取扱いとなる場合やスイッチングが行なえない場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

換金手数料　ありません。

信託財産留保額　ありません。

＜信託財産で間接的にご負担いただく（ファンドから支払われる）費用＞

運用管理費用（信託報酬）　純資産総額に対し年率1.81%（税抜1.71%）程度が実質的な信託報酬となります。
信託報酬率の内訳は、当ファンドの信託報酬率が年率1.1%（税抜1%）、投資対象とする投資信託証券の組入れに係る信託報酬率が年率0.71%程度となります。
受益者が実質的に負担する信託報酬率（年率）は、投資対象とする投資信託証券の組入比率などにより変動します。

その他の費用・手数料　【ブラジルレアル・コース／南アフリカランド・コース／オーストラリアドル・コース】
目論見書などの作成・交付に係る費用および監査費用などについては、ファンドの日々の純資産総額に対して年率0.1%を乗じた額の信託期間を通じた合計を上限とする額が信託財産から支払われます。
組入有価証券の売買委託手数料、資産を外国で保管する場合の費用、借入金の利息および立替金の利息などがその都度、信託財産から支払われます。
※運用状況などにより変動するものであり、事前に料率、上限額などを表示することはできません。
【米ドル・コース】
目論見書などの作成･交付および計理等の業務に係る費用（業務委託する場合の委託費用を含みます。）、監査費用などについては、ファンドの日々の純資産総額に対して年率0.1%を乗じた額の信託期間を通じた合計を上限とする額が信託財産から支払われます。
組入有価証券の売買委託手数料、資産を外国で保管する場合の費用、借入金の利息および立替金の利息などがその都度、信託財産から支払われます。
※運用状況などにより変動するものであり、事前に料率、上限額などを表示することはできません。

※投資者の皆様にご負担いただくファンドの費用などの合計額については、保有期間や運用の状況などに応じて異なりますので、表示することができません。
※詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

■委託会社、その他関係法人

委託会社	日興アセットマネジメント株式会社
受託会社	三井住友信託銀行株式会社
販売会社	販売会社については下記にお問い合わせください。 日興アセットマネジメント株式会社 〔ホームページ〕　www.nikkoam.com/ 〔コールセンター〕　0120-25-1404　（午前9時～午後5時。土、日、祝・休日は除く。）

■お申込みに際しての留意事項

〇リスク情報

・投資者の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者（受益者）の皆様に帰属します。なお、当ファンドは預貯金とは異なります。

・当ファンドは、主に株式（預託証書を含みます。以下同じ。）を実質的な投資対象としますので、株式の価格の下落や、株式の発行体の財務状況や業績の悪化などの影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資する場合には、為替の変動により損失を被ることがあります。

投資対象とする投資信託証券の主なリスクは以下の通りです。

価格変動リスク

・株式の価格は、会社の成長性や収益性の企業情報および当該情報の変化に影響を受けて変動します。また、国内および海外の経済・政治情勢などの影響を受けて変動します。ファンドにおいては、株式の価格変動または流動性の予想外の変動があった場合、重大な損失が生じるリスクがあります。

・新興国の株式は、先進国の株式に比べて価格変動が大きくなる傾向があり、基準価額にも大きな影響を与える場合があります。

・公社債は、金利変動により価格が変動するリスクがあります。一般に金利が上昇した場合には価格は下落し、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。ただし、その価格変動幅は、残存期間やクーポンレートなどの発行条件などにより債券ごとに異なります。

流動性リスク

・市場規模や取引量が少ない状況においては、有価証券の取得、売却時の売買価格は取引量の大きさに影響を受け、市場実勢から期待できる価格どおりに取引できないリスク、評価価格どおりに売却できないリスク、あるいは、価格の高低に関わらず取引量が限られてしまうリスクがあり、その結果、不測の損失を被るリスクがあります。

・新興国の株式は、先進国の株式に比べて市場規模や取引量が少ないため、流動性リスクが高まる場合があります。

信用リスク

・投資した企業の経営などに直接・間接を問わず重大な危機が生じた場合には、ファンドにも重大な損失が生じるリスクがあります。デフォルト（債務不履行）や企業倒産の懸念から、発行体の株式などの価格は大きく下落（価格がゼロになることもあります。）し、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。

・一般に公社債および短期金融資産の発行体にデフォルト（債務不履行）が生じた場合またはそれが予想される場合には、公社債および短期金融資産の価格が下落（価格がゼロになることもあります。）し、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。また、実際にデフォルトが生じた場合、投資した資金が回収できないリスクが高い確率で発生します。

為替変動リスク

◆ブラジルレアル･コース

・投資対象とする外国投資信託の組入資産については、原則として米ドル売り、ブラジルレアル買いの為替取引を行なうため、ブラジルレアルの対円での為替変動の影響を受けます。一般に外国為替相場がブラジルレアルに対して円高になった場合には、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。なお、為替取引を完全に行なうことができるとは限らないため、場合によってはブラジルレアルと米ドルの２通貨間の金利差を十分に享受することができない可能性や、米ドルの対円での為替変動の影響を受ける可能性があります。また、ブラジルレアルの金利が米ドル金利より低い場合、米ドルとブラジルレアルの金利差相当分の為替取引によるコストが発生します。

・投資対象とする外国投資信託の組入資産であるＡＤＲの値動きは、当該企業の株式の価格変動に加えて、当該株式の発行国通貨の米ドルに対する為替変動の影響を受けます。

・一般に新興国の通貨は、先進国の通貨に比べて為替変動が大きくなる場合があります。

◆南アフリカランド・コース
・投資対象とする外国投資信託の組入資産については、原則として米ドル売り、南アフリカランド買いの為替取引を行なうため、南アフリカランドの対円での為替変動の影響を受けます。一般に外国為替相場が南アフリカランドに対して円高になった場合には、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。なお、為替取引を完全に行なうことができるとは限らないため、場合によっては南アフリカランドと米ドルの２通貨間の金利差を十分に享受することができない可能性や、米ドルの対円での為替変動の影響を受ける可能性があります。また、南アフリカランドの金利が米ドル金利より低い場合、米ドルと南アフリカランドの金利差相当分の為替取引によるコストが発生します。
・投資対象とする外国投資信託の組入資産であるＡＤＲの値動きは、当該企業の株式の価格変動に加えて、当該株式の発行国通貨の米ドルに対する為替変動の影響を受けます。
・一般に新興国の通貨は、先進国の通貨に比べて為替変動が大きくなる場合があります。
◆オーストラリアドル・コース
・投資対象とする外国投資信託の組入資産については、原則として米ドル売り、オーストラリアドル買いの為替取引を行なうため、オーストラリアドルの対円での為替変動の影響を受けます。一般に外国為替相場がオーストラリアドルに対して円高になった場合には、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。なお、為替取引を完全に行なうことができるとは限らないため、場合によってはオーストラリアドルと米ドルの２通貨間の金利差を十分に享受することができない可能性や、米ドルの対円での為替変動の影響を受ける可能性があります。また、オーストラリアドルの金利が米ドル金利より低い場合、米ドルとオーストラリアドルの金利差相当分の為替取引によるコストが発生します。
・投資対象とする外国投資信託の組入資産であるＡＤＲの値動きは、当該企業の株式の価格変動に加えて、当該株式の発行国通貨の米ドルに対する為替変動の影響を受けます。
◆米ドル･コース
・投資対象とする外国投資信託の組入資産については、原則として為替ヘッジを行なわないため、米ドルの対円での為替変動の影響を受けます。一般に外国為替相場が米ドルに対して円高になった場合には、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。
・投資対象とする外国投資信託の組入資産であるＡＤＲの値動きは、当該企業の株式の価格変動に加えて、当該株式の発行国通貨の米ドルに対する為替変動の影響を受けます。
カントリー・リスク
・投資対象国における非常事態など（金融危機、財政上の理由による国自体のデフォルト、重大な政策変更や資産凍結を含む規制の導入、自然災害、クーデターや重大な政治体制の変更、戦争など）を含む市況動向や資金動向などによっては、ファンドにおいて重大な損失が生じるリスクがあり、投資方針に従った運用ができない場合があります。
・一般に新興国は、情報の開示などが先進国に比べて充分でない、あるいは正確な情報の入手が遅延する場合があります。

※ファンドが投資対象とする投資信託証券は、これらの影響を受けて価格が変動しますので、ファンド自身にもこれらのリスクがあります。
※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

〇その他の留意事項
・当資料は、投資者の皆様に「資源株ファンド 通貨選択シリーズ＜ブラジルレアル・コース＞＜南アフリカランド・コース＞＜オーストラリアドル・コース＞＜米ドル・コース＞（毎月分配型）」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。
・当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。
・投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。
・投資信託の運用による損益は、すべて受益者の皆様に帰属します。当ファンドをお申込みの際には、投資信託説明書（交付目論見書）などを販売会社よりお渡ししますので、内容を必ずご確認のうえ、お客様ご自身でご判断ください。

設定・運用は　日興アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者　関東財務局長（金商）第368号
加入協会：一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会

投資信託説明書(交付目論見書)のご請求･お申込みは

金融商品取引業者等の名称		登録番号	加入協会			
			日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
野村證券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第142号	○	○	○	○
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第195号	○	○	○	○

※上記販売会社情報は、作成時点の情報に基づいて作成しております。
※販売会社によっては取扱いを中止している場合がございます。

収益分配金に関する留意事項

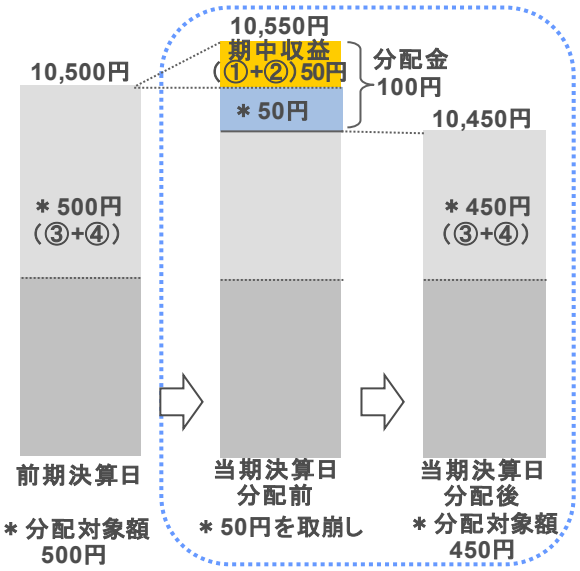
- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

投資信託で分配金が支払われるイメージ

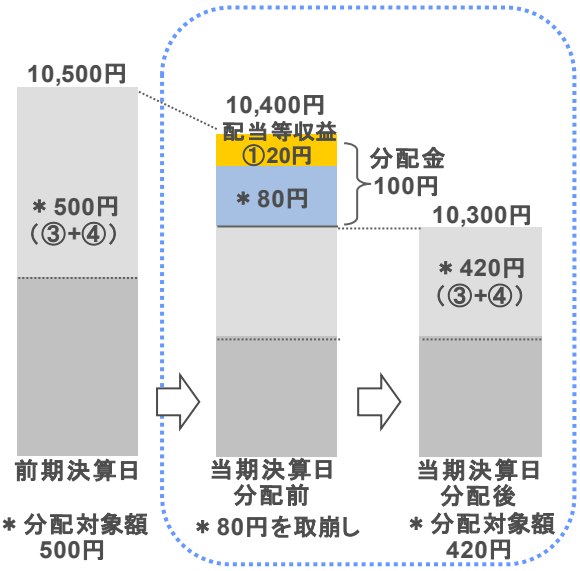
- 分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合

前期決算から基準価額が上昇した場合



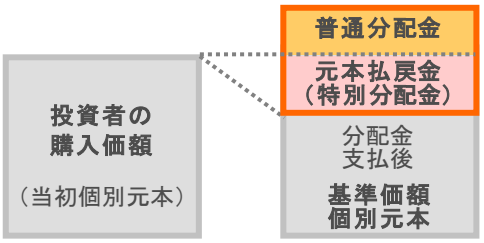
前期決算から基準価額が下落した場合



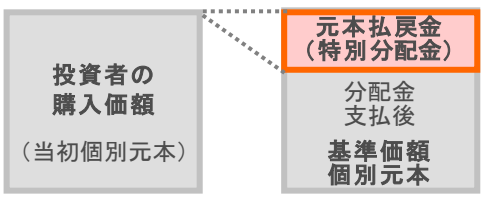
（注）分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。
※上記はイメージであり、将来の分配金の支払いおよび金額ならびに基準価額について示唆、保証するものではありません。

- 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。

分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合



分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合



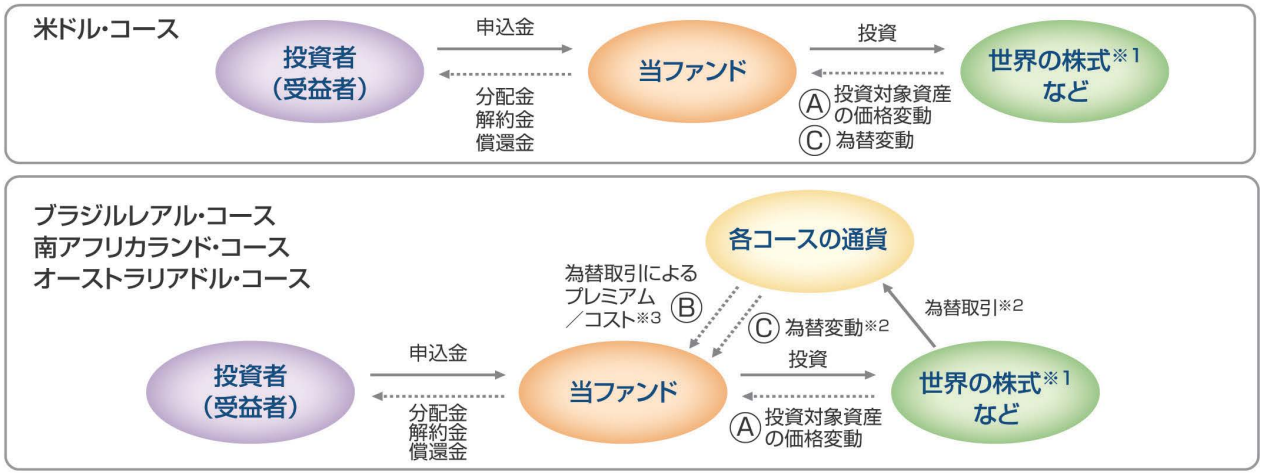
※元本払戻金（特別分配金）は実質的に元本の一部払戻しとみなされ、その金額だけ個別元本が減少します。
また、元本払戻金（特別分配金）部分は**非課税扱い**となります。

普通分配金　：　個別元本（投資者のファンドの購入価額）を上回る部分からの分配金です。
元本払戻金（特別分配金）　：　個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者の個別元本は、元本払戻金（特別分配金）の額だけ減少します。

通貨選択型ファンドの収益に関する留意事項

●通貨選択型の投資信託は、投資対象資産（株式や債券など）の運用に加えて、為替取引による通貨の運用も行なっており、為替取引の対象となる通貨を選択することができます。

通貨選択型の投資信託のイメージ図



※1 当ファンドは、外国投資信託を通じて世界の株式に投資を行ないます。
※2 各コースの通貨と円の為替変動リスクがあります。
※3 為替取引によるプレミアム／コストは、為替取引を行なう通貨間の金利差相当分の収益／費用です。

●通貨選択型の投資信託の収益源としては、以下の3つの要素が挙げられます。なお、収益源である3つの要素にはリスクが内在しています。詳しくは、「リスク情報」をご覧ください。

収益の源泉		Ⓐ 株価の値上がり／値下がり	＋	Ⓑ 為替ヘッジプレミアム／コスト	＋	Ⓒ 為替差益／差損
米ドル・コース	収益を得られるケース	株価の上昇*		為替ヘッジを行なわないのでありません。		為替差益の発生 原資産通貨に対して 円安
	損失やコストが発生するケース	株価の下落*				為替差損の発生 原資産通貨に対して 円高

収益の源泉		Ⓐ 株価の値上がり／値下がり	＋	Ⓑ 為替取引によるプレミアム／コスト	＋	Ⓒ 為替差益／差損
ブラジルレアル・コース 南アフリカランド・コース オーストラリアドル・コース	収益を得られるケース	株価の上昇*		プレミアム（金利差相当分の収益）の発生 各コースの通貨の金利 ― 米ドル金利 がプラス		為替差益の発生 各コースの通貨に対して 円安
	損失やコストが発生するケース	株価の下落*		コスト（金利差相当分の費用）の発生 各コースの通貨の金利 ― 米ドル金利 がマイナス		為替差損の発生 各コースの通貨に対して 円高

*ADRに投資する場合、ADRの価格には、当該現地株式の通貨に対する米ドルの変動が含まれます。そのため、当該現地株式の通貨に対して米ドル安であれば、株価上昇要因、当該現地株式の通貨に対して米ドル高であれば、株価下落要因となります。
※市況動向によっては、上記の通りにならない場合があります。

通貨運用に関する留意事項

●各通貨の運用に当たっては、直物為替先渡取引（NDF取引）を活用する場合があります。
●NDF取引とは、投資対象通貨を用いた受渡を行なわず、主に米ドル等による差金決済のみを行なう取引のことを言います。
●NDF取引では、需給や規制などの影響により、為替取引によるプレミアム（金利差相当分の収益）／コスト（金利差相当分の費用）が、短期金利から算出される理論上の水準から乖離する場合があります。そのため、想定している投資成果が得られない可能性があります。

■為替取引には、為替ヘッジ（原資産通貨を売り、円を買う取引）が含まれています。為替ヘッジの場合、「為替取引によるプレミアム／コスト」を「為替ヘッジプレミアム／コスト」といいます。